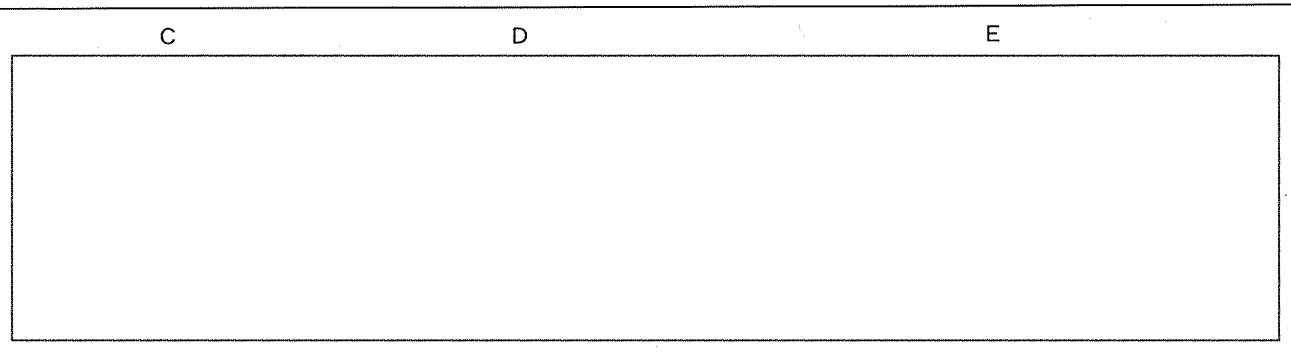
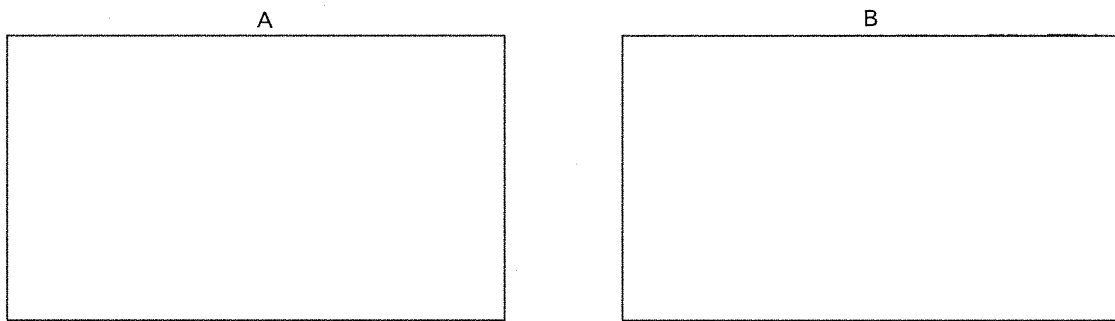


3 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

泰平の世を背景に、江戸時代には、様々な表現方法により日本美術が花開く。図版A、図版Bは共に、そうした当時の庶民の生活の一場面を表現している。

図版Aは、浮世絵版画を中心に活躍した絵師、葛飾北斎の「甲州石班沢」である。北斎は絵師として活躍した70年間に a 様々な分野で活躍し、90年の生涯の中で数万点の作品を残した。30代半ばからは自身の創作の世界を広げていく。浮世絵版画の連作には、代表作として b 「富嶽三十六景」等が挙げられる。これらの作品に見られるのは、働き、遊び、旅をする生き生きとした庶民と、その生活の中に象徴的に生きている富士山の姿である。また、風景、美人、花鳥、妖怪など幅広い画題を描き、精力的に c 複数の流派の表現法を吸収し、芸術大成の礎となった。現在も国内外での評価は高い。

図版Bは、岩佐又兵衛が描いたとされる「洛中洛外図屏風」の一部分である。当時の京都の市中とその周辺を活写した屏風絵であり、人々の生き生きとした様子や建築物が描かれている。d 屏風としての役割だけでなく、部屋の中に京の町が広がるような独自の空間演出も感じ取れる。



問1 上の図版Aの鮮やかな青色の表現には、舶来の色料が使用されている。色料名を答えよ。

問2 下線部aについて、上の図版C、Dに該当する浮世絵版画以外の分野をそれぞれ答えよ。

問3 北斎は、下線部bと同時期に日本各地の滝を描いているが、その連作の名称を答えよ。

問4 上の図版Eは、下線部cに該当する流派の代表作の一つである。その流派の名称を答えよ。

問5 下線部dを数える単位を、漢字1文字で答えよ。

問6 上の図版Bの表現方法として金雲が用いられている。金雲の画面構成上の特徴について二つ述べよ。また、右の図版Fは、図版Bの影響を受けて描かれた作品である。作者名を答えよ。

